1 【解き方】(1) 竹林へ竹の子を探しに行ったのは孟宗。a の病気になっている人物，b の竹の子を欲しいと思った人物，d の寿命が延びた人物はすべて母。

(2) 語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」にする。

(3) 係助詞「か」があるので，係り結びで「べき」としめくくられている。春に採れる竹の子が，冬の「雪深き折」に採れないことを反語で強調している。

(4) 引用の助詞を含む「…とて」に着目する。

(5) 孟宗がたくさん生えてきた竹の子を採ることができ，それを食べさせた母は病気が治って寿命も延びたということについて，作者は最後に「これ…天道より与へ給へり」と述べている。

(6) 直前の「にはかに大地開けて…生ひ出で侍りける」に着目し，取って帰ったものを母に食べさせたことから考える。

【答】(1) c　(2) あじわい　(3) エ　(4) ひとへに～頼み奉る　(5) ひとへに孝行の深き心を感じて(14 字)　(6) 孟宗(が)竹の子(を)

◀口語訳▶　孟宗は，幼い年頃で母を養っていた。母は，年老いてつねに病みわずらい，食事の好みも食事のたびごとに変わり，手に入れる方法のないものを望んだ。冬であるのに，竹の子をほしいと思った。すぐに，孟宗は竹林に行き，探したが，雪の深いころだったので，どうして容易に入手できようか，いや，できるはずがない。ひたすら天の神様のお慈悲をお頼み申し上げますと言って，祈りをかけて，大いに悲しみ，竹にもたれかかったところに，急に大地が開いて，竹の子がたくさん生え出た。大いに喜び，すぐに取って帰り，吸い物を作って，母に与えたので，母はこれを食べて，そのまま病気も治って，寿命を延ばした。これは，ひとえに孝行の深い心を感じて，天の神様からお与えになったものである。